

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市観光審議会
- 2 開催日時 令和6年2月2日（金）午前10時00分から
- 3 開催場所 水戸市役所 4階 政策会議室
- 4 出席した者の氏名
  - （1）委員 綿引 甚介，和田 幾久郎，大津 亮一，鈴木 宣子，林 太一，  
藤沼 貴士，大谷 剛史，鹿倉 よし江，林 由香里，堀井 武重，  
大久保 惣太，小林 伸光，松沢 実希子，小岸 幸雄
  - （2）執行機関 長谷川産業経済部長，小林観光課長，川俣観光課副参事，  
大関観光課課長補佐，篠原観光課企画物産係長，川崎観光課事業係長，  
中根観光課主幹，田治観光課主幹
- 5 議題及び公開・非公開の別
  - （1）水戸市観光基本計画〔第4次〕（素案）について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
  - 令和5年度水戸市観光審議会次第
  - 資料①：水戸市観光基本計画〔第4次〕（素案）
  - 資料②：水戸市観光基本計画〔第4次〕（素案）に対する意見への対応
  - 資料③：水戸市観光基本計画〔第4次〕策定に係るアンケート調査結果
  - 資料④：今後のスケジュールについて
  - 席次兼委員名簿
  - 水戸市観光審議会条例（参考資料）
- 9 発言の内容
  - 別紙 会議録

## 令和5年度水戸市観光審議会会議録

### 1 開 会

- ・定足数の確認
- ・会長の選出
- ・水戸市観光審議会 会長よりあいさつ
- ・署名人の指名

### 2 議 事

#### (1) 議案第1号 水戸市観光基本計画〔第4次〕(素案)について

執行機関 <資料①・②に基づき説明>

—————資料①・②に関する質疑—————

委 員 水戸市がインバウンドに取り組むにあたり、外国人観光客は水戸の位置や、東京との距離さえ知らないという現状があるので、基本的な情報から案内できるようにしなければならないと思う。

執行機関 現在水戸市では、インバウンド推進機構において、海外に向けた戦略的プロモーションと受入体制の充実に取り組んでいる。御意見の水戸市がどこにあるのかやアクセス方法の周知は、誘客を図る上で、最初の部分で大変重要だと感じているため、戦略的なプロモーションにおいて、ホームページや、パンフレット、また、旅行会社等への働きかけを強化することで、誘客するための準備を整えて参りたいと考えている。今後、具体的施策6-1 海外に向けた戦略的プロモーションの中で、いただいた御意見を踏まえながら、取組を推進して参りたいと考える。

委 員 先日梅まつりの実行委員会があり、県の方からお客様を表門へ誘導するように、周りの駐車場を整備しているという説明があったが、詳しく教えてほしい。

執行機関 表門近くに、身体障害者の方を優先的に案内できる12台分の駐車場を整備したと伺っている。それに関連して、これまでの好文亭表門駐車場に関しては、大型バスに乗ってきた観光客の降車場所として活用し、そのバスは、千波湖西駐車場の方に、待機させるという社会実験を実施するとのことである。

委 員 今まで茨城交通のキャッシュレス決済では、いばっぴしか利用できなかったが、2月1日からクレジットカードやPayPay等QRコード決済が使えるようになったので、観光客も助かるのではないかと思う。

梅まつり等イベントに合わせて走る周遊バスについて伺いたい。

執行機関 観光客等お客様には、中心市街地等にも回遊していただきたく、梅まつり期間中の2月24日、3月2日、3日に観光漫遊バスを走らせるが、無料で利用いただけるものとなっている。

また、民間のバス会社では、大人 400 円、こども 200 円でまちなかを周遊できるバスを運行しており、梅まつり期間でも御利用いただけるものとなっている。梅まつりのパンフレットにも掲載しているのので、しっかりとPRしていきたい。

委員 ポストコロナを意識した取組を進めてきたことにより、人流が活気を帯びてきたと肌で感じている中で、外国人観光客だけでなく、国内の人たちの動態のデータを解析して、事業に活用していくことが重要である。

インバウンド誘客においては、海外の方の日本における移動の際には、ジャパン・レール・パス等交通系のキャッシュレス決済が活用されているので、水戸市においても利用促進のためにキャッシュレスやDXの取組を進めていくことが必要であると考えます。

また、水戸市の観光スポットは点在しているため、行き方がわかりにくかったり、観光客の荷物の預け先が不足しているという現状がある中で、観光客の利便性を高めていくことで、いい街と認識していただき、さらに広く発信されていくことが望ましい。

最後に、旅の醍醐味は周遊や学びが重要であり、その点では水戸はポテンシャルが高いので、県や広域連携の中で魅力が伝わるように発信していく必要がある。

執行機関 まず、人流データを活用した効果的な観光施策の立案について、実際どういった内容のところまでデータを取れるかという詳細はこれから詰めていく段階だが、どの国から、どういった目的で、多くの方が、水戸に来ているのか、何に魅力を感じているのかという部分でデータを根拠に、様々な観光施策を立案していくことが重要と考えている。意見を踏まえて、データに基づいた取組を実施して参りたいと考える。

次に、特に外国人観光客の方の利便性の向上に関して、具体的施策 6-2 に示している外国人観光客の受入体制の充実において、セミナー等を通じて、改めて、キャッシュレス決済や、外国人観光客を受け入れる設備の重要性を事業者と共有し、受入体制を整えて参りたいと考える。

つづいて、手荷物の預け先の不足等に対しても、具体的施策 4-1 観光客にやさしい受け入れ体制の充実において、引き続き、事業者や観光案内所のスタッフなどと情報共有しながら、受入体制の強化を図って参りたいと考える。

最後に、県や広域での情報発信について、インバウンドの視点では、国や県と連携した営業活動、情報発信に引き続き取り組んでいく。また、基本施策 9 広域的な観光連携の推進で、県内外の自治体との広域連携による魅力ある観光圏の形成という具体的施策を位置付けており、市単独ではなく広域連携ならではの多層的な情報発信に取り組み、本市の魅力を発信するとともに、実際にお越しいただくことでさらに消費につなげていきたいと考える。

委員 観光が重要なものになると感じている中で、水戸市の場合は、若い人たちが遊べる場所がないという声を聞く。若い人たちはSNSを見ながら、観光地を訪れたり、また興味のあるところに行ったりしており、その点において広域

連携が大事だと考える。笠間市にあるスケートボード場や大洗町の海水浴、水族館等を周遊していただきながら、泊まるのは、水戸市を選んでいただく。そして、水戸市でも、若い人たちが遊べる、興味を持っていただけるようなものをこれから考えていかなければならない。さらに、SNSでの情報発信においては、ぜひインフルエンサーの活用についても検討していただきたい。

また、土産品について、水戸には洋菓子店が多くあるので、人気のある洋菓子店も巻き込みながら、新たな水戸のお土産の開発につながると思う。

最後に、弘道館・水戸城跡周辺地区において、お休み処がないという声があったので、あわせて今後検討していただきたい。

執行機関

まず、インフルエンサーを活用した情報発信について、若い人は TikTok や Instagram で、観光地の情報等を手に入れていると認識している。今年度のあじさいまつりでは、実際に、常磐高校と連携して、まつりを紹介する動画を作ってもらい、それをPRに活用した。今後は、インフルエンサーと連携した情報発信についても、検討していきたいと考える。

次に、市内洋菓子店との連携については、来年度の10月に茨城県で市町村対抗のグルメフェスを開催する予定であり、本市では、市内洋菓子店、県の洋菓子協会の方とも連携し、新たなご当地グルメの開発を進めているところである。今後も洋菓子店を巻き込んだ事業を展開していきたいと考える。

また、周辺市町村に訪れる観光客が水戸市に宿泊していただけるような取組についても、いばらき県地域観光協議会や、水戸・笠間・大洗・ひたちなか観光協議会等において、広域的な取組として、今後検討していく。

最後に、水戸大手門広場周辺については、大手門や二の丸角櫓の復元整備が一段落したところであり、現在は、民間イベントの開催支援に取り組んでいる。今後も、いただいた御意見を踏まえながら、広場の更なる活用策を検討したいと考える。

委員

コンベンション等の誘致強化について、水戸市で開催されたG7の安全担当大臣会合において、アフターコンベンションを推進するという事で会議の後に、様々なPRに取り組まれていた。アフターコンベンションでのPRが、非常に大きな集客の力になると考えるが、「水戸ならではのアフターコンベンションの支援」について想定していることを伺いたい。

執行機関

コンベンションの誘致に関しては、参加者の満足度を向上させることによってリピーター確保につなげるために非常に重要であり、御意見のとおりG7の開催を今後大きな宣伝材料として、市内外そして、国外に対してもPRしていくべきものと考えている。「本市ならではのアフターコンベンション」については、コンベンションの会議や食事をその土地ならではの歴史的な施設や昔ながらの商店街などで開催する、「ユニークベニュー」という考え方がある。さらに、会議が終わった後の日程を、エクスカージョンとして市内の観光スポットをめぐっていただくケースもある。弘道館・偕楽園等と調整をしながら、水戸ならではのアフターコンベンションやユニークベニューの充実を図りたいと考えている。

<資料③に基づき説明>

—————資料③に関する質疑—————

委員 通年型の観光として、千波湖のライトアップ等を考えていただけたらと思う。

執行機関 観光課においては、毎年桜の時期に千波湖のライトアップの取組を行っている。通年型として、タイミング等について検討を要するため、いただいた御意見を参考として今後進めて参りたいと考える。

委員 (同世代におすすめのスポットで) 偕楽園が1位だが、(梅まつりに同世代を呼ぶために充実させるべき点に関する) 意見の中で若者向けのイベントが少ないと言われている。また、黄門まつりについて、参加型のおまつりではあるが、現地に観光に来てすぐ何か体験できるものなどこれまで以上に充実させる計画を伺いたい。

執行機関 まず、梅まつりに関して、花を楽しむまつりということで、若者の来訪が少ないのではと考えている。そのため、梅まつりでは、「夜・梅・祭」という夜のライトアップを含めたイベントを開催している。今年は新たに二の丸角櫓の中を水府提灯とプロジェクションマッピングを活用して空間演出をするなど若者を呼ぶためのイベントに取り組む。

つづいて、黄門まつりに関して、令和元年度に従来の市民の方が主に楽しんでいただくまつりから、より県外の方にお越しいただいて、楽しんでいただく、観光型のまつりへとリニューアルを図った。リニューアルの目玉の一つとして、水戸黄門提灯行列を実施しており、会場に来た方が、当日提灯を購入すれば行列に参加できる、参加型のイベントとなっている。今年度は、想定よりも参加者が少なかったという課題等もあったため、今後さらにPRを強化しながら充実を図って参りたいと考えている。もう一つ、日本最大級を誇る水戸ふるさとみこし渡御についても、市民や観光客が参加できるイベントであり、こちらも次年度以降に向けて、PRを図りながら、充実させて参りたいと考える。

委員 黄門まつりの日程について、8月の第1週から動く予定はあるか。

執行機関 コロナ等があり、秋口に開催したこともあったが、カーニバルをはじめとした関係団体と行った意見交換を踏まえ、暑さ対策を十分行った上で、基本的には8月上旬に開催する方針としている。

—————議案第1号について全て承認—————

(2) その他

執行機関 <資料④に基づき説明>

—————資料④に関する質疑—————

会 長 全体を通して、何かあるか。

委 員 アンケート結果で「旅行者へのプロモーション」が非常に高い割合で期待されており、地域に貢献していかなければと感じた。我々の情報網やツールを水戸市の観光の一助として御活用いただきたい。また、観光分野はとても幅広く、サイクルツーリズムやヘルスツーリズムなど「ツーリズム」を付けると、みんな観光になる。あらゆる分野にツーリズムがつくような中で、国の計画で示されている「少子化に伴う人口減少」に観光の事業者は悩んでいる。観光政策の5年後、10年後を見据えると、観光人材の育成が非常に重要な課題であると思う。今年度の4月から日本旅行業協会において、小学生、中学生、高校生に、観光について出前授業を始めている。観光は重要視されていながらも、人材育成が進んでいない状況なので、人材育成及び市民のシビックプライドの醸成も含めて進めていただけるとありがたい。

委 員 地方の人口減少が進む中で、交流人口から、関わりや繋がり、こだわりができることで関係人口が作られ、そこから定住人口を増やすという考え方がある。水戸市において、学ぶ機会や医療、子育て環境が整ってきている中で、水戸市外の人に参加したい、住みたいと思ってもらえる取組を10年、20年と続けていった先につくばに一番を取られるんじゃないかと、イーブンの形までいけるのではないかと。その流れにおいて、まず外の人が水戸市を知るきっかけ、人を交流させる機会となるのがこの観光であると感じている。

### 3 閉 会